

## 編集後記

### 第四十六号原稿募集

左記の要領で、第四十六号の原稿を募集します。

- 一、内容 国語学・国文学・漢文学・書道・国語科教育に関する論考
- 一、字数 縦書き(30字×25行×2段で一頁)、横書き(42字×37行で一頁)、但し、共に15頁以内程度とします。  
原則として、電子データと紙媒体でお送りください。
- 一、締切 二〇二一年九月三十日。但し、原則として、同年六月三十日までに、論題・卒業・修了年度を明記の上、投稿の申し込みをして下さい。
- 一、宛先 〒八五二一八五二一 長崎市文教町一の一四 長崎  
大学教育学部内 長崎大学国語国文学会事務局。郵  
送か電送で。
- 一、論文掲載の可否は、事務局にご一任ください。
- 一、掲載論文には、抜き刷り二十部を贈呈致します。
- 一、リポジトリへの掲載に関しては、事務局にご一任下さい。

長崎大学国語国文学会誌『国語と教育』第45号をお届けします。今号から雑誌と会報の編集方針を変更しまして、雑誌に収録していた「現場からの報告」を会報に移すこととなりました。

さて、本号は、シンポジウム報告一本と論考二本の計三本を掲載しました。昨年度開催致しました長崎大学国語国文学会のシンポジウム報告集である平瀬正賢・北村かおり・山中典希「語彙指導の改善・充実」に向けて」を巻頭に配し、言葉を駆使することの喜びを感じる子ども育成を目指して、その実践的な取り組みを報告・検証した森下論文、江戸時代長崎の名所案内記である『長崎土産』の成立を検証した拙稿を載せています。

昨年度末からのコロナウイルスの流行による社会の激変を受けて、今後教育現場はギガスクール構想を始めとする大変革に見舞われることが予想されます。その激動の時代にあって、変化に対して柔軟に対応しつつも、一方において変わることのない「国語」という教科の本質をいずれの点に見出し、教授していくか、本号掲載の報告集および森下論文にはそのヒントが隠されていると考えます。未来の国語科の授業のあり方に関して、本誌および学会において、会員の皆さまの自由闊達な議論が今後さらに活発になされることを切望する次第です。

本誌は、会員の皆さまの御理解と御支援の上に成り立っております。今後の御投稿と学会発表を切にお願い申し上げます。

(吉良記)